

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10. No.1 2008年1月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ヤマハ、最大24拠点まで対応したIP音声会議多地点オーディオミキサーを発売、4台連結で最大96拠点まで拡張可能



PJP-MC24

ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、音声会議用多地点接続装置(MCU)として多地点接続用オーディオミキサー「プロジェクトフォン PJP-MC24」を2007年12月下旬から販売開始した。

PJP-MC24は、同社のIP電話会議システム「プロジェクトフォン PJP-100H」と「プロジェクトフォン PJP-50R」を最大24拠点まで接続・同時通話することができる。また、PJP-MC24を4台連結接続(カスケード接続)すると、最大96拠点までのIP音声会議多地点接続も可能だ。

PJP-MC24は、パソコンで会議予約をして自動的に会議を開催したり、あるいは、会議予約無しで、すぐに会議を開催する(アドホック会議)にも対応。アドホック会議では、10拠点まで参加可能な会議を同時に最大30開催可能。

今回PJP-MC24を発売するきっかけは、規模の大きなIP電話会議多地点への要望がユーザーからでているからだ。既に販売しているIP電話会議システムPJP-100HとPJP-50Rでは、その端末を連結接続することで最大8台を結んだ多

地点接続が可能だが、それよりも端末数が多い多地点接続へのニーズに対応するために、PJP-MC24を市場投入することにした。



PCで会議を予約



アドホック会議

PJP-MC24は、IPでの多地点接続機能(10BASE-T/100BASE-TX使用)に加え、オーディオポート(ステレオアナログ入出力、各2系統)に音響機器を接続することで、社内放送などの音声ストリーミングにも活用できるという。

音声会議では特に音声の品質が重要だが、ヤマハは、このPJP-MC24に、無音圧縮技術と同社がルータなどで培ってきたネットワーク技術を投入することで、狭い通信帯域でも多地点接続を可能とするとともに、ノイズの少ない音声品質を実現しているという。

PJP-MC24は、IPv4対応、SIPサーバ機能を搭載してい

る。これにより、PJP-100H 及び PJP-50R に内線番号を割当て、それを一括管理することが可能となる。仮に、PJP-100H 及び PJP-50R が DHCP サーバから動的に IP アドレスを割り振られる環境であっても、PJP-MC24 で管理している同じ内線番号での運用が可能。

さらに、管理機能も豊富で Web ブラウザを使って PJP-MC24 にログオンすることで行える。管理機能としては、端末管理、通信管理、会議管理が提供されており、会議予約、開催、終了などを PJP-MC24 から一括管理できる。その他、拠点情報、通話状況、障害履歴(障害メール通知)、会議履歴、異常時ログなどにも対応している。最大拠点登録数は、500 で拠点登録は、CSV 形式ファイルによる一括登録が可能。

希望小売価格は、500,000 円(消費税別)。質量は、1150g。外形寸法は、220(W)x 42.6(H) x 220(D)mm(ケーブル、端子類含まず)。

シスコ、テレプレゼンスシステム発売1年で40カ国100社へ導入、今後はミーティング用途を越えたアプリケーションに期待



Cisco TelePresence 3000

「当社のテレプレゼンスシステムは、発売から1年ほど経つが、P&G、Rogers Communications、Regus、SAP、POSCO(韓国)など全世界で多数の企業に導入されている。シスコシステムズ社内においても、160以上のシステムが既に稼働しており、日本には東京と大阪と4システムが日々必要不可欠なミーティングツールとして社内に定着している。」と説明するのは、シスコシステムズ 米国本社 テレプレゼン

スシステムビジネスユニット シニアビジネスディベロップメントマネージャー 菊田 弘之 氏。最近の12月10日の米シスコシステムズの発表によると、40カ国100法人企業への導入に達したという。



Cisco TelePresence 1000

ただ、テレプレゼンスシステムは、最近シスコシステムズ以外にも、HP、ポリコム、タンバークなどから発売されている。コストは数千万円もかかり、既存のビデオ会議システムの延長線にあるハイエンドシステムと見られる趣が強い。

それに対して、同社クラウドプレイ ビジネスディベロップメント シニアマネージャー 福永 靖氏は次のように説明する。「確かに、既存のビデオ会議システムと同列で比較される場合が多いが、テレプレゼンスシステムは、そもそも開発されたコンセプトが全く違う。つまり、テレプレゼンスシステムは、同質感や空間共有を究極の形で実現しようと開発したものだ。それがビジネスの効率性や生産性に直結するからだ。一方、既存のビデオ会議システムは廉価に購入できるものが増えてきたが、相手と対面したときの明瞭さや相互のやりとりをうまく伝えることができなかつたり、肝心なときに使い勝手が悪かつたり、システムの信頼性に不都合があつたりして十分ユーザのニーズを満たすことができていない。テレプレゼンスシステムは、それらの課題を、コーデックシステムから部屋全体の構成も含め包括的に取り組んで開発した技術的成果といえる。」

CNAレポート・ジャパンの橋本は、都内のシスコシステムズ本社のテレプレゼンスシステム「Cisco TelePresence

3000」を拝見した。ビデオ会議システムの延長線上にあるものとは単純に言い切れない細部にわたった工夫が見られる。

モニターとビデオ会議システムがあれば同質感を感じるということは難しい。同質感を考える場合、環境を作り出すひとつひとつの構成部分に眼をやる必要がある。加えて、その環境を自分側だけでなく、相手側にも同じに構築することが重要な要件になる。

従って、ディスプレイのサイズ、映像と音声の品質、カメラの位置と角度、ライティングとその角度、テーブルのレイアウト、壁の色と遮音性の高い壁設備、外が見える窓の有無、そして、部屋のサイズなどの構成とバランスを考慮し、それと同じ環境を相手側にもつくる。テレプレゼンスの開発の肝はここにある。同質感というのは“同じ部屋にいるような”感覚であるからだ。

その Cisco TelePresence 3000 が設置されている部屋に入ると、外からの光の反射を考慮して外が臨める窓はなかったが、薄茶色系の色（実際には複数色から選択可能）ではほぼ全体の壁が統一されている部屋だった。ライティングは、天井から吊り下げられたボード状の上に天井に向かってライトが設置された間接照明で、天井に当たった光が反射し部屋全体に柔らかく広がる明るさを作り出していた。それに合わせて、ディスプレイの明るさも少し抑えた感じだ。そういった細かいところが、参加者の疲労度を左右する要因になるためだ。「テレプレゼンスを設置するための部屋のサイズや窓の数などをガイドラインとして事前にお客様に確認させて頂いている。それはテレプレゼンスのメリットを十分に享受して頂くためのもの。」(同 福永 靖 氏)

ディスプレイは、65 インチのプラズマディスプレイ3台が、お互いに横一列に密接させ、テーブルにそって若干内向きに弧を描いて並べられている。ディスプレイを連動させて3台で相手側をパノラマ的に表示する。通常相手側1カ所を1ディスプレイで表示するところを3台使用して表示するということだ。こちら側に6人、相手側に6人、都合12人がこのシステムでテレプレゼンスミーティングが行える。そして、カメラは

中央のディスプレイ上部に設置されている。「アイコンタクトを自然にするためにカメラアングルを細かく調整してお客様に提供している。」(同 福永 靖 氏)

またディスプレイの後ろ側から、ディスプレイの形に沿って四角に包むように、ソフトな白色系のライトが照らされている。この発想は、ハリウッドの映画監督であるスティーヴン・スピルバーグの照明ディレクターが設計したそうだ。

そして、ディスプレイの前には、ディスプレイに表示されている相手のテーブルがこちら側に本当に飛び出してきたかのように設置され、こちら側の参加者のテーブルに楕円形に繋がっている。ここにも同質感を作り出す工夫が見られる。テーブルは重厚感のあるしっかりとしたテーブルになっている。

「開発当初 50 インチのディスプレイも検討したが、人間2人を1画面に等身大に表示するには若干無理があった。そこで一回り大きい 65 インチを採用した。」(同 菊田 弘之 氏)

テーブル上には、その他、シルバー色の集音用マイクが3台や、相手をコールしたりするために使うカラーディスプレイを搭載した IP 電話機「Cisco IP Phone 7970G」が1台ある。また、電源やイーサネットポートもテーブルには設置されている。

テレプレゼンスミーティングを行う際には、その場で Cisco IP Phone 7970G のタッチスクリーンで相手を選ぶか、事前に予約をする場合は、Microsoft Outlook などのスケジュールソフトと連動させると、予定を入れるだけでその時刻になれば、Cisco IP Phone 7970G のスクリーンに表示された予約情報をワンタッチするだけで、テレプレゼンスミーティングの接続が自動で開始する。「初めて使う人に口頭で使い方を簡単に説明することはあっても、使用マニュアルが必要なほどではないと思う。」(同 福永 靖 氏)

ディスプレイの下には、白い幕状の横長のスクリーンが貼られ、そこにはスピーカが内蔵されている。しかし、それはプロジェクタ用のスクリーンとしての役割も持つ。スピーカから出てくる音は、相手の画面上の位置と同期しており、

向かって右側の位置の人が声を出すと、右側のスピーカから声が聞こえ、逆に左側であれば左側から聞こえる形になっている。もし、人が右から左へと話しながら動けば、それに合わせて右のスピーカから左のスピーカへと継ぎ目なく声が動きながら聞こえてくる。実際に聞いてみると、音は人が動いてもクリアで途切れなく聞こえてくるのがわかる。

テーブル下側には、その白いスクリーンに向けてプロジェクタが設置され、PCと接続できるモニターケーブルと接続されている。PCと接続するとその画面が、そのスクリーンに投影されるだけでなく、相手側のスクリーンにも投影されるという仕組みとなっている。

また眼を天井に向けると、ライト以外にも天井設置用のドキュメントカメラも見える。ちょうど、真下のテーブルを見下ろすように設置されているため、プロジェクタがフォーカスしているところに資料などを置くと、相手側にそれを見せることができる。「PC 資料と手元の資料も簡単な操作で相手に見せることができるのは、ミーティングの生産性を高めるのに有効だ。」(同 福永 靖 氏)

Cisco TelePresence 3000 の映像、音声、通信関係については、映像符号化として H.264 規格を使用し 720p あるいは 1080 p の解像度、そして音声符号化はステレオ 22kHz(AAC-LD)、G.711 をサポートしている。1080p を使用し QoS を効かせ最大で 15Mbps 程度の帯域を使用する。

それに対してエントリーモデルとして、「Cisco TelePresence 1000」も提供している。こちらは、Cisco TelePresence 3000 とは違い、部屋の作り込みやテーブルなどはなく、65 インチディスプレイにコーデックやカメラ、マイクを内蔵したタイプ。自分側に2名程度相手側にも同数程度の小規模テレプレゼンスミーティング用途を想定している。映像、音声などの仕様は Cisco TelePresence 3000 と同じだが、Cisco Telepresence 1000 はディスプレイが1台のため使用する帯域もその分少なくすむ。

「Cisco TelePresence システムは、Cisco Unified Communications Manager (旧 CallManager)の環境やユニファイド・コミュニケーション環境に統合できるが、社内スケジュー

ールシステムなどと連動させる場合は、Cisco TelePresence Manager(シスコ・テレプレゼンス・マネージャ)が、また、多地点接続を行う場合には、Cisco Multipoint Switch(シスコ・マルチポイント・スイッチ)が必要となる。」(同 福永 靖 氏)

多地点接続は、最大 36 画面(=36 ディスプレイ)をサポートしている。つまり、Cisco TelePresence 3000 で多地点を行うとすれば、1 拠点あたり 3 画面あるため、12 拠点を結んだテレプレゼンス多地点接続ミーティングが行えるということ。もちろん、Cisco TelePresence 3000 と Cisco TelePresence 1000 の組み合わせも可能だ。画面は全ての拠点を表示できないため、音声の発声による自動切り替え(ボイス・アクティベート、発声があるとその拠点の映像を配信する仕組み)で多地点接続を行う。また、そのボイス・アクティベートである拠点を自分のディスプレイに表示する方法として2つがある。ひとつは、セグメント方式、もう一つはサイト方式になる。サイト方式は、3 画面フルに使用して、相手側の拠点(サイト)を表示。一方、セグメント方式は、画面単位で、相手側の画面(セグメント)を表示する。



バーチャル・マーガレット

この記事の冒頭、シスコシステムズでは、テレプレゼンスシステムの社内利用が進んでいると書いたが、ミーティング以外の用途として興味深い使われ方も社内にはあると菊田氏が説明してくれた。それは「バーチャル・マーガレット」というもので、遠隔から秘書を行う例だ。米のテレビニュースで放映され有名になった。

マーガレットは、シスコシステムズのイメージング・テクノ

ロジャー・グループ(ETG) シニア・バイス・プレジデント、ジェネラルマネージャ Marthin De Beer 氏の秘書。彼女はサンノゼの米本社に3年勤務していたが、家庭の理由からテキサスに引っ越しをすることになった。そこで優秀な社員を手放せないとサンノゼの上司である Marthin De Beer 氏は一計を案じ彼女をテキサスのオフィスへ社内異動させるとともに、そこからテレプレゼンスシステムを使って遠隔秘書を行なってもらうことにした。

マーガレットがサンノゼに居た時の自席にはテレプレゼンスシステムが設置され、テキサスの自席から遠隔でサンノゼオフィスの上司や来客の対応などを日々行っている。「テレプレゼンスを使うことで、物理的に離れていても、今まで通りに好きな会社を辞めずに仕事が続けられる。テキサスに居ることを忘れる感じがする。」といった感想を彼女は述べている。



3D テレプレゼンス

シスコシステムズは、2006年10月にインドにシスコ・グローバル・センタを開設した。そこでのオープニングイベントでCEOのJohn Chambers氏は、3Dを使った新たな等身大テレプレゼンスシステムを会場で披露。そのシステムを使い、サンノゼのMarthin De Beer氏と、テレプレゼンス・システム・ビジネス・ユニット バイス・プレジデント、ジェネラルマネージャChuck Stucki氏と対談。John Chambers氏がサンノゼのMarthin De Beer氏に向かって顔に汗が流れているのが見えたり、Chuck Stucki氏がサンノゼからボールを投げて、そのボールがインドの会場客席に飛んでくるという芸を行い、

リアルさをアピールしていた。これも、シスコシステムズとしては、ミーティング用途を越えた新しいアプリケーションのひとつとして現在開発中のようだ。また、同社では近い将来ホーム向けのテレプレゼンスの提供も視野にあると公にしている。

「1年前に発売以来大手企業を中心にテレプレゼンスシステムの認知が国内でも広まってきたと実感している。今後は、ミーティング用途だけでなく、たとえば、エンターテインメントなど幅広い利用も期待している。」(同 福永 靖氏)

テレプレゼンスは、シスコシステムズにとって重要なビジネスのひとつになりつつある。

ヒューレット・パッカード、タンバーグと協力し Halo テレプレゼンスと H.323/H.320 テレビ会議との相互接続を実現、その他、暗号化、多言語、通訳サービス、低コストテレプレゼンスソリューションも同時に提供開始



日本 HP 市ヶ谷事業所の Halo Studio : 画面に見えるのは米HP担当者 : 左側画面が Halo Studio からの接続、右側はテレビ会議システムからの接続

米ヒューレット・パッカード社とタンバーグ社は協力し、HP社の Halo テレプレゼンスと、H.323/H.320 テレビ会議システムとの相互接続を実現し、日本でも提供を開始したと日本ヒューレット・パッカード株式会社(東京都千代田区)が発表。加えて、Halo Collaboration Studio に加えて、

コストを下げ導入しやすくした「Halo Collaboration Meeting Room(ハロー・コラボレーション・ミーティング・ルーム)も合わせて日本市場向けに発表した。

2007年12月下旬にCNAレポート・ジャパンの橋本は、日本HPの市ヶ谷事業所にて、市ヶ谷のHalo StudioとアメリカのHalo Studioとを接続し、日本HPと米HPのHalo担当者からそれらの概要について説明を受けた。

Halo Collaboration Studioは、2005年に北米で、追って日本では2006年8月に発表され、「日本を含め世界各国のユーザに120システム導入が進んだ。HP社内でも現在ワールドワイドに約40システムが稼働しているが今後120システム以上稼働する予定だ。」(日本HP IPG Haloビジネス推進部 部長 石山泰律氏)

Halo Collaboration Studioは、もともとはテレビ会議システムユーザであった、米アニメーション製作大手 Dreamworks Animation社と共同開発したもので、ユーザの要望に基づき既存のテレビ会議システムを越えることを主眼に開発された。Haloは、ディスプレイ、カメラ、マイク、ネットワーク機器、内装、照明器具の他、そしてコンシェルジュサービスとともに、専用のHVENグローバルネットワークを含めた包括的なマネージドサービスとして提供されている。「Dreamworks Animation社では既存のテレビ会議システムに対して十分満足しておらず、自分たちの発想でHalo Collaboration Studioのベースになるコンセプトを考え出した。Haloはそこに当社の先進の技術を結集して実現されたユーザのための究極のソリューションだと考えている。」(米HP Halo フューチャーズ・プロダクトマーケティングマネージャー Mark Minne氏)

今回新たに発表されたのは、以下の通り。

(1) HPは、テレビ会議システムメーカーTANDBERG社と提携し、HaloとTANDBERGなどのテレビ会議システム(H.323/H.320対応)との相互接続を実現した(HP Halo Gateway)。Halo Gatewayはオプションとして提供される。

「タンバーク社とは、テレプレゼンスシステムにおけるマー

ケティングや相互接続の面でお互いに協力をしている。Halo Gatewayは両社の先進の技術を合わせた結晶のひとつである。」(米HP Mark Minne氏)

「Halo Gatewayを利用することで、ユーザは社内に設置されている既存のテレビ会議システムを有効活用できる。」(米HP Halo プロダクト・マーケティング・マネージャ Greg Campbell氏)

またHalo GatewayとHaloの多地点接続機能とを組み合わせると、Haloとテレビ会議システムで最大7地点での会議が行える。通常Halo同士だと最大4地点だが、その場合、多地点機能から見ると、Halo GatewayがひとつのHalo Studioサイトとして認識される形態を取る。そして、テレビ会議システム端末は、そのHalo Gatewayに対して入れ子状に接続する。そうすることで、そのテレビ会議システム4端末と他のHaloと合わせ都合7拠点の多地点接続が可能となる。その場合でも、もちろん資料共有も可能だ。

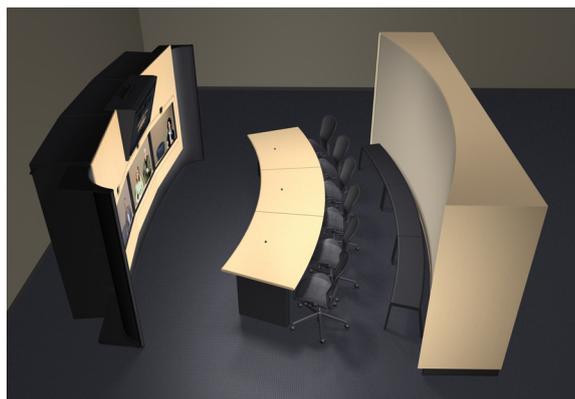
一方この多地点環境をユーザの視点から見ると、Halo側のディスプレイ1画面には、その4端末からの映像が多画面分割で表示される。転じてテレビ会議端末側も同じように、Haloなどからの映像が多画面分割で表示される。

このHalo Gatewayを使うことで、Halo Studioの利便性が高まると同社では見ている。従来のHalo Studioでは、電話がHaloでの会議に割り込んで参加することはできたが、テレビ会議システムは実現されていなかった。Halo Studioで全ての拠点を接続できればそれは理想的だが、実際はテレビ会議システムや電話など環境の違いもある。そういった際の会議参加者の柔軟性をサポートする意図がここにはある。

(2) AES-256ビット暗号化の提供。「政府系のユーザなどから特に要望が高いため実現した。Haloは、閉じられたネットワークであるHVENで提供されているためセキュリティは高いのだが、より強固なセキュリティを望む声が政府系ユーザを中心に大きかった。一般的に、暗号化を行うと通信への影響(システムへの負荷が高いために例えば映像

などの遅延現象)が懸念されるところだが、Halo では暗号化されていない時と比べても体感的にほとんど遜色ない。たとえば、多地点会議では、128 ビットも 256 ビットの端末もその端末が持つベストのビット強度で接続ができる。」(米 HP Greg Campbell 氏)

(3) ユーザインターフェイス多言語対応、及び、通訳サービスの提供。当初英語のみ対応していたユーザインターフェイスは、日本語を含め 10 言語以上に対応、日本語のメニューでの操作環境を提供できるようになった。また、コンシェルジュ(オペレータ)サービス使用時や、Halo でのミーティングの際の通訳サービスも提供している。「160 以上の言語に対応した長年の通訳サービスで実績のある LLS 社と契約した通訳サービスも Halo のひとつのサービスとして提供する。」(米 HP Mark Minne 氏)



Halo Collaboration Meeting Room(席の後側にはバックウォールが設置されている)

(4)「Halo Collaboration Meeting Room(ハロー・コラボレーション・ミーティング・ルーム)」の提供。Halo Collaboration Meeting Room は、Halo Studio の普及型ソリューション。Halo Studio の性能と機能はそのまま継承しながら、Halo Studio で含まれていた内装や照明などを省いた低コストタイプのもの。オプションとして、照明やバックウォールを追加選択できる。「音の反響の関係でバックウォールを設置することで快適な音響環境を用意することができる。」(米 HP Greg Campbell 氏)

ディスプレイ部などは、モジュール化されているため、新

たに専用室を設計施工する必要がなく、規定のルームサイズを満たせばどの部屋でも搬入してセットアップができるメリットがある。「コストを低減してテレプレゼンスを導入したい企業はもとより、テナントビルなどに入居していて、いずれは転居する可能性がある企業などにとってもメリットの高いソリューションだ。」(米 HP Mark Minne 氏)

またモジュール化されていることで広い部屋に設置すれば、その場合標準の6人掛けから数十人規模に席を拡張して、いわばオーデトリウム式に多数の人が Halo でテレプレゼンスミーティングに参加できることになる。Halo Studio が完全な専用室タイプに対して、Halo Collaboration Meeting Room は、会議室の用途以外にも、セミナー会場や大学キャンパスの教室など幅広い用途にも向くソリューションといえる。

「Halo Collaboration Meeting Room は、価格を Halo Studio よりは安く設定してはいるが、単純にエントリーモデルというわけではないというのがここにある。」(米 HP Mark Minne 氏)

Halo Studio として今回発表された Halo Gateway や Halo Collaboration Meeting Room の日本での販売は、IPG Halo ビジネス推進部で対応している。各システムの価格は、米ドル計算で提供されている。Halo Collaboration Studio のベース価格が、349,000USD。Halo Collaboration Meeting Room のベース価格は、249,000USD。ゲートウェイオプションは、Halo 新規設置の場合は、39,999USD。既に設置している Halo への追加の場合は、44,999USD。それぞれメンテナンスサポート、ネットワーク費用などの月額費用が別途かかる。

「Halo は日本国内でも順調に採用されており今後企業への提案も積極的に行っていく考えだ。当社市ヶ谷事業所などで Halo Studio のデモンストレーションを行っているので一度是非体験していただきたいと考えている。」(日本 HP 石山泰律氏)

キヤノンソフト情報システム、Web 会議システムのサブスクリプション販売を開始

キヤノンソフト情報システム株式会社(大阪市中央区)は、2008年1月9日よりWeb 会議システム「IC³(アイシーキューブ)」のサブスクリプション販売プログラムを開始した。

IC³は、利用環境に応じた帯域制御が可能な映像配信技術とスムーズなデータ共有機能に特長があり、PCとブラウザがあれば、ビデオ会議や遠隔PC/アプリケーション共有ができるWeb 会議システム。

IC³ サブスクリプションプログラムは、IC³ ソフトウェアのレンタル販売プログラム。プログラム契約期間中、ソフトウェアライセンスに対する全ての機能及び保守の利用が可能。

これにより、Web 会議システム用の設置サーバを自社で運用・管理することで、セキュリティを強固にしながらも、SaaSやASPの形態で提供されるWeb 会議サービスと同様な初期コストの低減を実現できるのが大きなメリットと同社では説明する。

セミナー・展示会情報

【国内】

「Web 会議を活かし切る」セミナー
～Web 会議はこうして使う！ 700 企業の実績から～

日時:1月24日(木)13:30-17:00(受付開始:13:00)
会場:NEC ブロードバンドソリューションセンター関西
(大阪府大阪市中央区城見 1-4-24 NEC 関西ビル)
主催:NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局
協賛:エイネット株式会社
プログラム:

- 13:30-14:30 【第一部】
「Web 会議市場動向と利用トレンド」
～ 企業にとって Web 会議システムの意義とは ～
講師:CNA レポート・ジャパン
代表 橋本 啓介
- 14:30-14:40 休憩
- 14:40-15:40 【第二部】
「新バージョン FreshVoice Ver.5」の紹介と
デモンストレーション
講師:エイネット株式会社
取締役営業部長 西畑 博功 氏
- 15:40-15:50 休憩
- 15:50-17:00 「ショールーム兼リファレンスオフィス見学ツアー」

詳細・申込:
<http://www.nec.co.jp/univerge/seminar/partner080124/index.html>

「これからのビデオ会議はこうなる」セミナー
～いつでも・どこでもコミュニケーションの実現～

日時:2月7日(木)13:30-17:00(受付開始:13:00)
会場:NEC ブロードバンドソリューションセンター ホール
(品川イーストワンタワー 7F)
主催:NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局
協賛:日本タンバーグ株式会社

- プログラム:
- 13:30-14:15 「ビデオ会議市場の近況と使用効果」
講師:CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介
- 14:15-14:25 休憩
- 14:25-15:10 「TANDBERG が提供するリアルな HD ビデオ会議システムと統合コミュニケーション」
講師:日本タンバーグ株式会社
代表取締役社長 林田 直樹 氏、その他
- 15:10-15:55 「事例からひもとくビデオ会議システムの効用」
講師:日本タンバーグ株式会社 営業
- 15:55-16:00 休憩
- 16:00-17:00 「ショールーム兼リファレンスオフィス見学ツアー」

詳細・申込:

<http://www.nec.co.jp/univerge/seminar/partner080207/index.html>

【海外】

TeleSpan's 13th Annual Predictions

日時:1月18日午後1時(米国東部時間)
会場:Webによるオンラインセミナー
主催:TeleSpan Publishing Corporation
詳細・申込:
https://www.conferenceplus.com/confcenter/PinCode/Pin_Code.aspx?100046&o=70542023755262
*テレビ/Web/電話会議システムの市場動向と業界の今後の動きについて予想。

TeleSpan's Third Annual Future of Conferencing Workshop

日時:3月31日-4月1日
会場:米ネバダ州ラスベガス
主催:TeleSpan Publishing Corporation
パンフレット:<http://cnar.jp/telespanws.pdf>
URL:<http://www.telespan.com/>
*セミナーは英語で開催されます。

今回ラスベガスで開催されるセミナーにあわせて、以下 TeleSpan 社 社長エリオット・M・ゴールド氏より、CNA レポ

ート・ジャパン定期レポート読者へのメッセージがありますのでそのまま英語にて掲載致します。セミナーは、業界関係者あるいは、ユーザや市場アナリストなど業界の動向に関心のある方向けとなっています。

TeleSpan's Third Annual Future of Conferencing Workshop March 31 and April 1, 2008 in Las Vegas is designed to help the conference call industry in Japan and the Pacific.

Why?

The global conferencing market is unfortunately following trends in the North American conferencing market.

Here are the trends:

First the conference call market was led by carrier based conference call providers.

Then- independents came over to Japan and the Pacific from North America and Europe to compete with the carriers. When they did, they took away customers and drove prices down.

Today- Skype, Intel, Cisco, IBM Microsoft and even Google are about to come into the Japanese and Asian market to change the market forever.

That's why TeleSpan's third annual Future of Conferencing Workshop will address these trends and will help all in the industry learn to work together and still make a profit.

TeleSpan has invited Skype, Intel, Cisco, IBM and Google to present to an international audience on March 31 and April 1 in Las Vegas.

It's a workshop you can't afford to miss.

Book your reservation now!

Go to <http://www.telespan.com/>

And click on "Enter"

And then click on "Future of Conferencing Workshop"

編集後記

明けましておめでとうございます。
本年も何卒宜しくお願い致します。

今年は引き続き会議システムのトレンドを追いながら、その中で、HD化、テレプレゼンス、ユニファイドコミュニケーションがどのように進化していこうとするのかを見ていきたいと思えます。

NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局主催のセミナー1月24日(大阪、協賛:エイネット株式会社)、2月7日(東京、協賛:日本タンバーク株式会社)にて、講演をさせていただくことになりました。ご興味がありましたら是非ご参加ください。詳細は、前ページの「セミナー・展示会情報」をご覧ください。

代表 橋本啓介